

毎月分配パッケージファンド 《愛称:分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日

基準価額の推移



基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	8,353 円	+ 35 円
純資産総額	112.42 億円	- 0.32 億円

期間別騰落率

	騰落率
1ヶ月	0.66%
3ヶ月	6.58%
6ヶ月	12.13%
1年	10.83%
3年	39.49%
設定来	128.86%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 7,570 円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2024年	20 円											
2025年	20 円											

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。



毎月分配パッケージファンド 《愛称:分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日



組入投資信託証券の状況

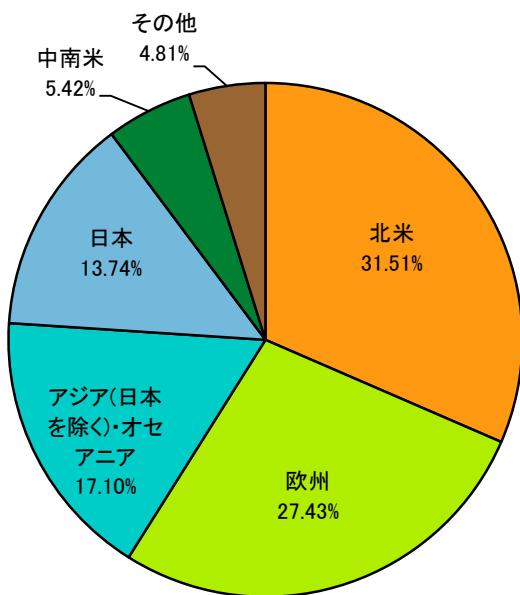
投資信託証券	資産構成比	基本組入比率	差	基準価額騰落貢献額
FOFs 用外国債券オープン(適格機関投資家専用)	19.95 %	20.00 %	-0.05 %	11 円
Global Multi Strategy - U.S. Municipal Bond Fund JPY Dividend Retail Class	14.70 %	15.00 %	-0.30 %	- 10 円
ピクテ・ユーロ・セレクト・インカム(適格機関投資家専用)	14.73 %	15.00 %	-0.27 %	10 円
フランクリン・テンプルトン・オーストラリア毎月分配型ファンド(適格機関投資家専用)	15.06 %	15.00 %	0.06 %	30 円
ピクテ・ハイインカム・ソブリン・ファンド(適格機関投資家専用)	14.86 %	15.00 %	-0.14 %	20 円
ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド クラスSAM 分配型受益証券	9.88 %	10.00 %	-0.12 %	- 15 円
FOFs 用日本株式インデックス・オープン(適格機関投資家専用)	9.50 %	10.00 %	-0.50 %	14 円
その他	1.32 %	-	-	- 26 円
合 計	100.00 %	100.00 %	-	35 円

※ 対純資産総額比です。

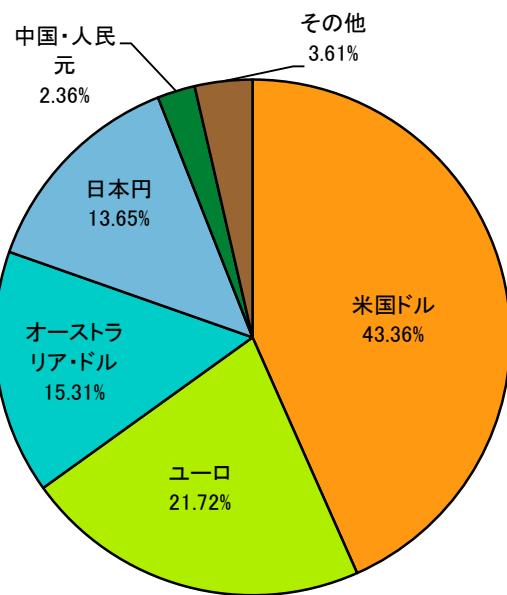
※ 以下ファンド名の「(適格機関投資家専用)」を省略して表記することがあります。

また、「ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド クラスSAM 分配型受益証券」を「グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド」と表記することがあります。

地域別組入比率



通貨別組入比率



※ 対純資産総額比です。

※ 対純資産総額比です。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称:分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日

FOFs用外国債券オープンの運用状況

基準価額(指数化)の推移



※ 上記グラフは、「FOFs用外国債券オープン」の当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

市場動向

米国10年国債利回りは、4.167%に上昇(価格は下落)しました。月前半は、失業保険申請件数や人員削減の減少などが相次ぎ、利回りが上昇しました。FRB(米連邦準備理事会)が3会合連続で利下げを決めたことや、バランスシートの再拡大を決めたことが金利上昇圧力を弱める結果となり、月後半は4.1%台で一進一退の展開となりました。

ドイツ10年国債利回りは、2.855%に上昇しました。シュナーベルECB(欧洲中央銀行)専務理事が将来的な利上げに言及したことなどが、長期金利の上昇につながりました。

米ドル/円相場は、前月末からほぼ横ばいとなりました。月前半は、植田日銀総裁の講演内容を受け利上げ観測が高まったことや、米雇用関連指標が労働市場の減速を示したことなどを背景に、円高・米ドル安となりました。月後半は、日銀が0.25%の利上げを決定したものの、今後の利上げペースについては慎重と受け止められたことから、一時157円台まで円安・米ドル高が進みました。月末には片山財務相による円安けん制発言があったことから、円に買い戻しが入る場面がありました。

ユーロ/円相場は、円安・ユーロ高が進行しました。ユーロは一時184円92銭まで上昇し、最高値を更新しました。月前半は、植田日銀総裁の講演内容から日銀の利上げ観測が高まり、一時円高・ユーロ安となりましたが、その後は、日本の財政懸念がくすぶるなか、円が売られる展開が続きました。月後半は、利上げ後の日銀総裁会見を受けて今後の利上げに慎重との見方が強まり、一時円安・ユーロ高が進ましたが、その後は横ばいで推移しました。

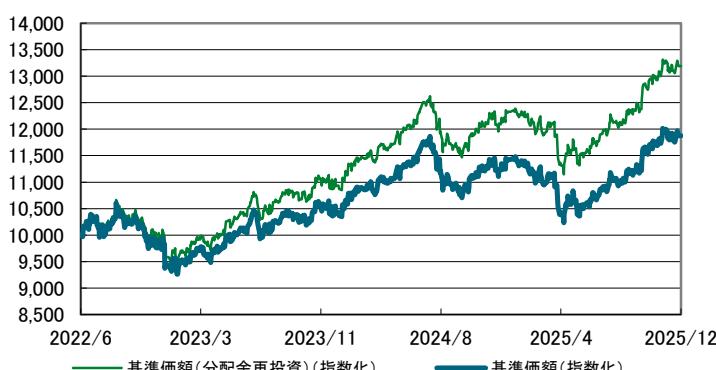
期間別騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	組入開始来
ファンド	0.66%	6.26%	9.96%	7.60%	32.82%	103.81%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

Global Multi Strategy – U.S. Municipal Bond Fund JPY Dividend Retail Classの運用状況

基準価額(指数化)の推移



※ 上記グラフは、「Global Multi Strategy – U.S. Municipal Bond Fund JPY Dividend Retail Class」の当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

市場動向

米10年国債利回りは前月末から上昇しました。上旬は日銀総裁から利上げを示唆する発言があつたことで日本の長期金利が上昇し、米国債にも波及したことや米労働市場が底堅く推移していると一部の経済指標で示されたことから利回りは上昇しました。また、大方の予想どおり、FOMC(米連邦公開市場委員会)で0.25%の利下げが決定されました。同時に発表された政策金利見通しでは、前回9月の見通しと同じく2026年は1回(0.25%)の利下げが示唆されました。中旬は一部のFRB(米連邦準備理事会)高官から今後の利下げを巡って慎重な見方が示されたことが利回り上昇要因となった一方、11月の米雇用統計で失業率が悪化したことや米消費者物価指数の上昇率が市場予想を下回ったことが利回り低下要因となったことから、利回りは横ばいとなりました。下旬は年末で市場参加者が少ないなか、利回りは若干上昇しました。

米国地方債の対米国債スプレッド(米国債に対する上乗せ金利)は、需給環境が良好であったことから小幅縮小しました。

期間別騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	組入開始来
ファンド	-0.76%	6.02%	12.32%	6.97%	37.76%	31.91%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称:分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日

ピクテ・ユーロ・セレクト・インカムの運用状況

基準価額(指数化)の推移



※ 上記グラフは、「ピクテ・ユーロ・セレクト・インカム」の当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

市場動向

12月のユーロ圏国債市場では、FTSE EMU国債指数AAA(ユーロベース)が前月末比下落(利回りは上昇)しました。ユーロ圏国債市場は、上旬は、日銀の利上げ観測の高まりなどを背景に世界の国債市場が下落する中、ドイツの鉱工業生産指数などユーロ圏の経済指標が堅調なことやユーロ圏主要国の財政支出拡大などを受け下落基調となりました。中旬は、もみ合う展開となりましたが、ECB(欧洲中央銀行)が4会合連続の政策金利据え置きを決定し、景気見通しを上方修正すると、下げ幅を拡大しました。その後、月末にかけては上昇ましたが、月間では下落しました。

12月のユーロ/円為替市場は、円安・ユーロ高となりました。上旬は、植田日銀総裁の講演内容から日銀の利上げ観測が高まり、円高・ユーロ安基調となりました。しかし、その後は日本の財政懸念がくすぶるなか、円が売られる展開が続きました。中旬には日銀の金融政策決定会合で市場の予想通りに利上げの実施が発表されましたが、利上げの最終目標の目安となる中立金利の水準の変更については踏み込んだ発言がなかったことなどから、一段と円安・ユーロ高となりました。下旬には日本の財務相が為替市場の急変動に対して市場介入を辞さない姿勢を示したことから円高・ユーロ安となる場面もありましたが、月を通して円安・ユーロ高となりました。

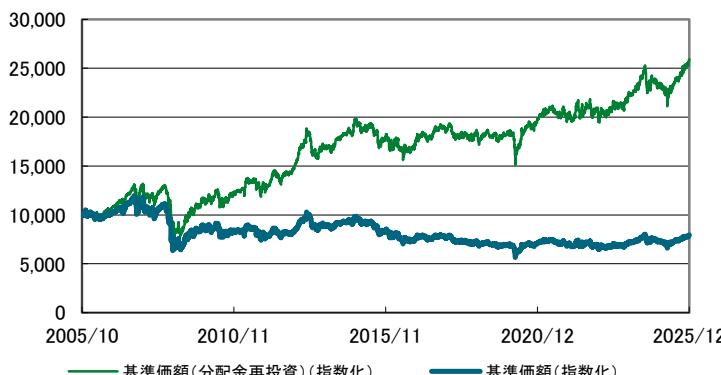
期間別騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	組入開始来
ファンド	0.84%	4.96%	7.68%	9.70%	32.70%	70.43%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

フランクリン・テンプルトン・オーストラリア毎月分配型ファンドの運用状況

基準価額(指数化)の推移



※ 上記グラフは、「フランクリン・テンプルトン・オーストラリア毎月分配型ファンド」の当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

市場動向

【オーストラリア債券市場】

当月のオーストラリア債券市場の利回りは、上昇(価格は下落)しました。上旬は、豪家計支出がほぼ2年ぶりの高水準となったことから、市場ではRBA(オーストラリア準備銀行)が利上げに転じる時期が前倒しになるとの見方が強まったため、利回りは上昇しました。なお、RBAは当月の理事会で市場予想通り政策金利を据え置きました。しかし、理事会後の会見でブロックRBA総裁が追加利下げの可能性を否定し、金融引き締めもあり得ると発言したことが、利回りがさらに上昇する要因となりました。中旬は、FRB(米連邦準備理事会)の利下げなどを受けて米国債券利回りが低下したことや、軟調な豪雇用統計などが、オーストラリアの利回り低下要因となりました。下旬は、当月のRBA理事会の議事要旨が公開され、理事会は足元の豪CPI(消費者物価指数)が予想外に高かったことを受けて、インフレリスクが高まったと判断したことが明らかになったことから、利回りは一時上昇しました。しかし、その後は閑散とした年末相場が続く中で、利回りは小動きで推移しました。

【為替市場】

当月の豪ドル/円相場は、豪ドル高・円安となりました。上旬は、堅調な豪経済指標やブロックRBA総裁のタカ派的な発言を受けて、RBAの利上げ前倒し観測が強まつたことから、豪ドル高・円安が進みました。中旬は、当月の金融政策決定会合を控え、日銀の利上げ観測が高まつたことから、豪ドル安・円高が一時優勢となりました。しかし、政策金利を引き上げた会合後の会見において、植田日銀総裁が利上げペースを速めることに慎重な姿勢を示すと、豪ドル高・円安に転じました。下旬は、RBA議事要旨を受けてオーストラリアの利回りが上昇したことや、鉄鉱石などコモディティ価格が堅調に推移したことを受け、豪ドルは対円で一段と上昇しました。

期間別騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	組入開始来
ファンド	2.49%	6.35%	9.96%	10.62%	30.92%	159.13%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称:分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日

ピクテ・ハイインカム・ソブリン・ファンドの運用状況

基準価額(指数化)の推移



※ 上記グラフは、「ピクテ・ハイインカム・ソブリン・ファンド」の当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

市場動向

12月の新興国ソブリン債券市場(JPモルガンEMBIグローバル・ディバーシファイド指数、ドルベース)は上昇(利回りは低下)しました。米ドル建て新興国債券市場のベースとなる米国国債は下落しました。米国の経済指標が景気の底堅さを示し、追加利下げ観測が後退したことなどが米国国債の下落要因となりました。米国国債と米ドル建て新興国債券の利回り格差(スプレッド)は前月末より縮小しました。高金利などに着目した新興国債券市場への資金流入などがスプレッド縮小の要因になりました。米国国債は下落しましたが、スプレッドが縮小したことから、米ドル建て新興国債券市場は前月末より上昇しました。

12月の米ドル/円為替市場は、前月末比ほぼ横ばいとなりました。日銀が早期に追加利上げを実施するとの観測などが円高要因となつた一方で、日本の財政悪化懸念などが円安要因となり、上旬よりもみ合う展開となりました。中旬には日銀の金融政策決定会合で市場の予想通りに利上げの実施が発表されましたが、利上げの最終目標の目安となる中立金利の水準の変更については踏み込んだ発言がなかったことなどから、円安・米ドル高となりました。下旬には日本の財務相が為替市場の急変動に対して市場介入を辞さない姿勢を示したことから円高・米ドル安が進行し、月を通して前月末比ほぼ横ばいとなりました。

期間別騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	組入開始来
ファンド	1.60%	8.84%	18.49%	14.11%	54.75%	276.73%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンドの運用状況

基準価額(指数化)の推移



※ 上記グラフは、「グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド」の当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額は、管理報酬控除後です。

市場動向

12月はMSCI世界株価指数(現地通貨ベース)がほぼ横ばいの推移となるなか、世界公益株式(現地通貨ベース)は下落しました。世界の株式市場は、月初から米国の利下げ観測の高まりを背景に上昇基調で推移しました。その後、市場予想通り米国で利下げが決定され、FRB(米連邦準備理事会)のパウエル議長が経済について楽観的な見通しを示したことなどを受けて上げ幅を拡大しましたが、月半ばには、AI(人工知能)関連銘柄の成長性や株価水準の高さに対する警戒感などが懸念材料となり下落しました。月後半は、11月の米CPI(消費者物価指数)の伸びが鈍化したことなどを受けて米国の追加利下げ観測が高まったことや、ECB(欧洲中央銀行)が経済成長見通しを上方修正したことなどを背景に上昇基調となりましたが、月末にかけて利益確定の売りが出たことから、月間ではほぼ横ばいとなりました。業種別では、金融、素材、資本財・サービスなどが上昇した一方、公益事業、不動産、ヘルスケアなどが下落しました。

期間別騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	組入開始来
ファンド	-1.80%	7.85%	14.22%	17.72%	52.92%	330.69%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称:分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日



FOFs用日本株式インデックス・オープンの運用状況

基準価額(指数化)の推移



市場動向

国内株式市場は上昇しました。月前半は、植田日銀総裁の発言により12月の追加利上げ観測が高まり、東証33業種分類の銀行業は26年ぶりの高水準となりました。月半ばには、FRB(米連邦準備理事会)の利下げが米景気を支えるとの期待から、S&P500指数やNYダウが最高値をつけた流れを受けて、TOPIXも過去最高値を更新しました。月後半は、米オラクルの株価が大幅安となつたことからハイテク関連株の売りが目立ったものの、金融株などが買われ上昇しました。

※ 上記グラフは、「FOFs用日本株式インデックス・オープン」の当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

期間別騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	組入開始来
ファンド	1.82%	9.50%	21.81%	25.03%	92.91%	260.70%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称:分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日



ファンドの特色

1. 外国債券と内外の株式に分散投資し、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。
2. 基本配分比率は以下の通りです。

資産	基本配分比率
外国債券	80%
先進国債券	グローバル債券※1※2 20%
	米国債券 15%
	欧州債券 15%
	オーストラリア債券 15%
	新興国債券 15%
内外株式	20%
世界株式	10%
	国内株式 10%

※1：日本を除きます。※2：短期金融資産への投資比率を含みます。

3. 原則として、毎決算時(年12回)に収益の分配を行います。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。

【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【為替変動リスク】

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【米国地方債に関する信用リスク】

米国地方債は、元利償還財源の相違によって「レベニュー債」と「一般財源保証債」に大別されます。

〈レベニュー債〉

レベニュー債は、特定事業(例としては、空港、上下水道、公立病院、公立学校の整備・運営等)から生じる収入等を元利償還財源として発行されます。このため、発行体である地方公共団体や公的機関等が、レベニュー債の裏付けとしてあらかじめ定められた特定事業以外の事業等から生じた資金を保有していたとしても、その資金がレベニュー債の元利償還に充当されることはありません。したがって、発行体である地方公共団体や公的機関等の財政状況にかかわらず、レベニュー債の裏付けとなる特定事業が不振となり、当該レベニュー債に係る元利払いができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、レベニュー債の価格が下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

〈一般財源保証債〉

一般財源保証債は、起債する地方公共団体の課税権を含む全信用力を担保として発行され、発行体が元利償還の全責任を負います。したがって、発行体である地方公共団体が財政難、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、一般財源保証債の価格が下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

〈本資料のお取扱いにおけるご留意点〉を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称:分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日



投資リスク

【カントリーリスク】

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。また、新興国への投資は先進国に比べ、上記のリスクが高まる可能性があります。

【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【有価証券の貸付等に係るリスク】

投資対象ファンドにおいて有価証券の貸付の指図を行った場合、取引相手先の倒産などにより決済が不履行となるリスクがあり、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

《その他の留意点》

- 米国地方債は、米国居住者が所得税を課税される課税債と課税されない非課税債に分かれます(ただし当ファンドなど米国非居住者が投資する場合には、いずれも課税されません(税制については今後変更される可能性があります))。当ファンドの投資対象ファンドは、銘柄分散等の観点から非課税債に投資する可能性があります。将来、米国における税制度の変更により非課税の取り扱いが廃止され、投資対象ファンドが非課税債を保有していた場合には、当該非課税債の価格が下落する可能性があります。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てる必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称：分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日

お申込みメモ

購入単位	… 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	… 購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。 (基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金単位	… 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	… 換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額とします。
換金代金	… 原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
申込締切時間	… 原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金制限	… ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	… 取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	… 無期限(2005年10月21日設定)
繰上償還	… 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。 ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合 ・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合 ・やむを得ない事情が発生した場合
決算日	… 每月14日(休業日の場合は翌営業日)です。
収益分配	… 年12回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。
課税関係	… 課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 ファンドは、NISAの対象ではありません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌々営業日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額

換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に**0.3%**の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。

<当ファンド>

純資産総額に対して年率0.847%(税抜0.77%)を乗じて得た額

<投資対象とする投資信託証券>

純資産総額に対して年率0.5273%程度(税抜0.494%程度)

<実質的な負担>

純資産総額に対して**年率1.3743%程度(税抜1.264%程度)**

基準配分比率で按分した投資対象投資信託証券の信託報酬を含めた実質的な信託報酬率の概算値です。ただし、この値は目安であり、投資対象投資信託証券の実際の組入れ状況等により変動します。

■ その他の費用・手数料

有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。この他、投資対象とする投資信託証券においては、当該投資信託証券の信託報酬とは別に、投資信託財産に関する租税や、投資信託の運営・運用等に要する諸費用が発生します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称：分配ファミリー》

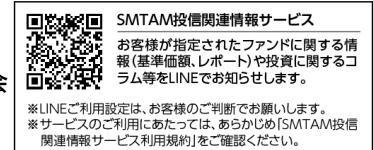
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日

委託会社・その他の関係法人の概要

- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社(ファンドの運用の指図を行う者)
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
ホームページ：<https://www.smtam.jp/>
フリーダイヤル：0120-668001 受付時間 9:00～17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)



販売会社

商号等	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)※	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

※ ネット専用のお取り扱いとなります。

- お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- 販売会社は今後変更となる場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



毎月分配パッケージファンド 《愛称：分配ファミリー》

追加型投信／内外／資産複合

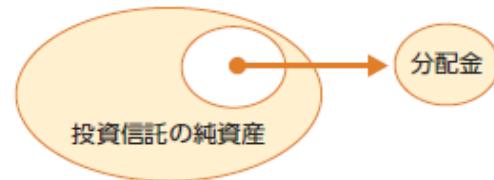
当初設定日：2005年10月21日

作成基準日：2025年12月30日

収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

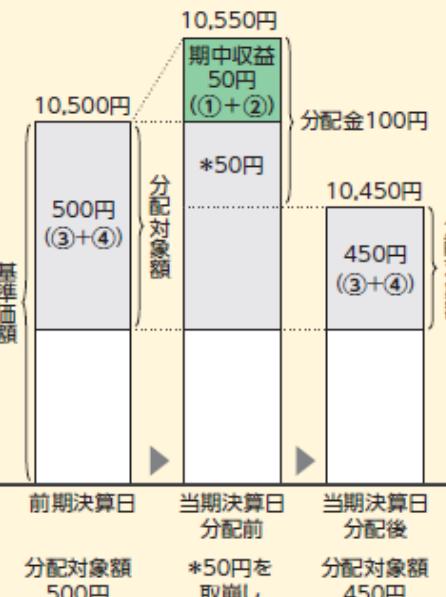
投資信託で分配金が支払われるイメージ



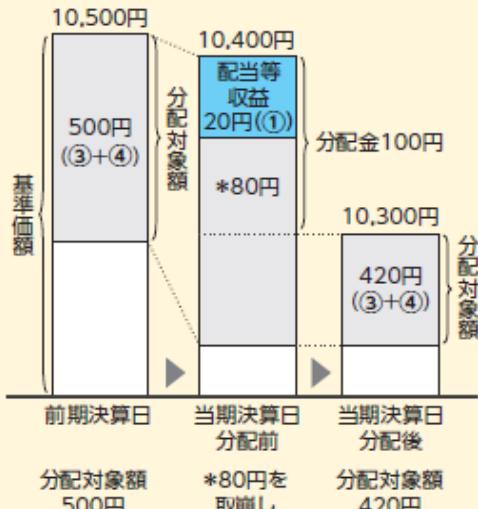
分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの收益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

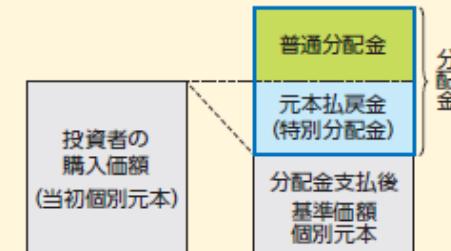
- 分配対象額とは、
 - ① 経費控除後の配当等収益
 - ② 経費控除後の評価益を含む売買益
 - ③ 分配準備積立金
 - ④ 収益調整金
- です。

※右記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆あるいは保証するものではありませんのでご留意ください。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金 個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

元本払戻金 (特別分配金) 個別元本を下回る部分からの分配金です。元本払戻金 (特別分配金) は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、分配後はその金額だけ個別元本が減少します。

※元本払戻金 (特別分配金) 部分は非課税扱いとなります。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。